

問 4 シホさんは、広島市の変容について調べるために、資料 10 と資料 11 を得た。これらの資料から読み取った文として不適切なものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。  
解答番号は 

4
---

。

資料10 広島市の地形図(1972年頃)



(日本地図センター『地図で見る広島の変遷Ⅳ 2万5千分の1の地図』により作成)

資料11 広島市の地形図(2001年頃)



B

(日本地図センター「地図で見る広島の変遷Ⅵ 2万5千分の1の地図」により作成)

- ① 資料10の「市営棧橋」から定期航路が出ており、資料11でも存続している。
- ② 資料10にあった「宇品線」は、資料11では廃止され、線路跡の一部には道路がつくられた。
- ③ 資料10の「東洋工業宇品工場」の南にあった海面は、資料11では埋め立てられ、有料道路もつくられた。
- ④ 資料10の「仁保三丁目」の西に広がる傾斜地は、資料11では新たに大規模な工業用地として整備された。

**2** 世界の自然環境，資源・産業に関して，問1～問4に答えよ。

問1 ナミさんは，海外の絵本に興味をもち，資料1～資料3を得た。これらの資料を基に資料1の絵本の舞台となった国として最も適切なものを，あとの①～④のうちから一つ選べ。

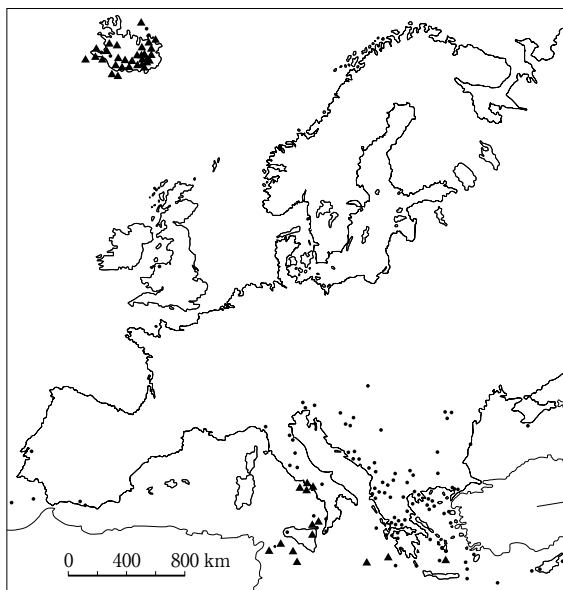
解答番号は **5** 。

資料1 絵本『女トルロと8人の子どもたち』からの抜粋



(『女トルロと8人の子どもたち』により作成)

資料2 ヨーロッパにおける地震，火山の分布

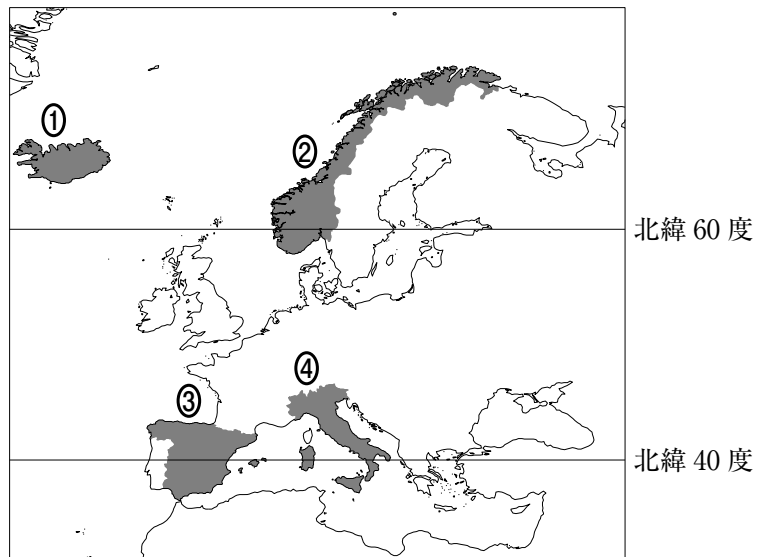
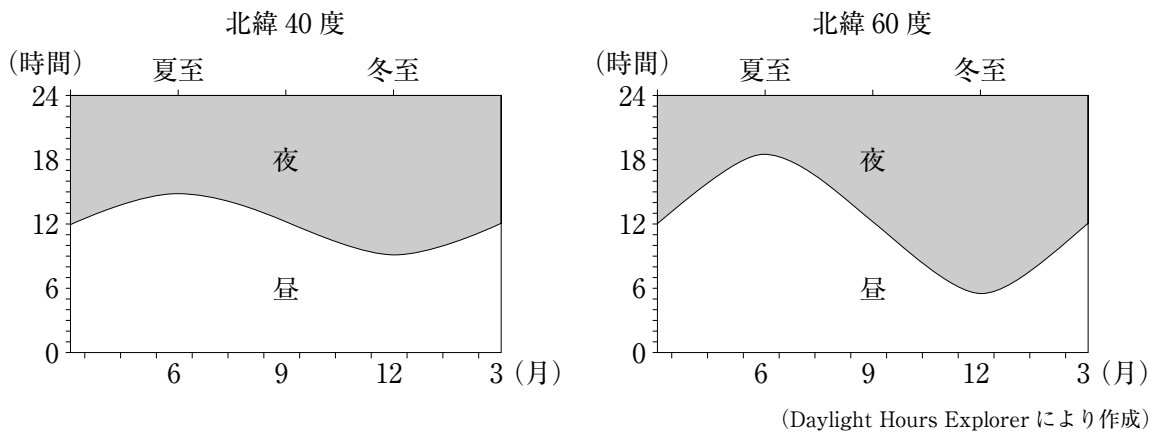


- ・地震(1900～2000年において発生した激震または大きな被害をもたらしたもの)
- ▲火山(歴史時代に活動したもの)

トルコのアジア側，および北アフリカのデータは，本図から省いた。

(『ヨーロッパ文化地域の形成と構造』により作成)

資料3 緯度による昼と夜の時間

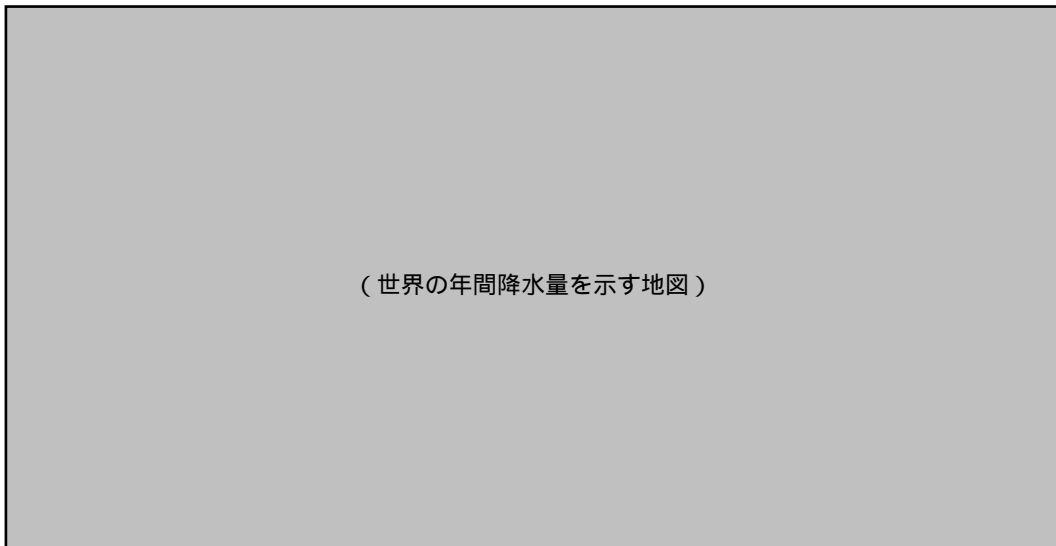


問 2 ナミさんは、土壌の形成に興味をもち、資料 4～資料 7 を得た。土壌の形成に関する次の文章と資料 4 を参考にして、資料 5 中のイに当たる資料 6 中の植生に関する写真と資料 7 中の図の組合せとして最も適切なものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。

解答番号は 6 。

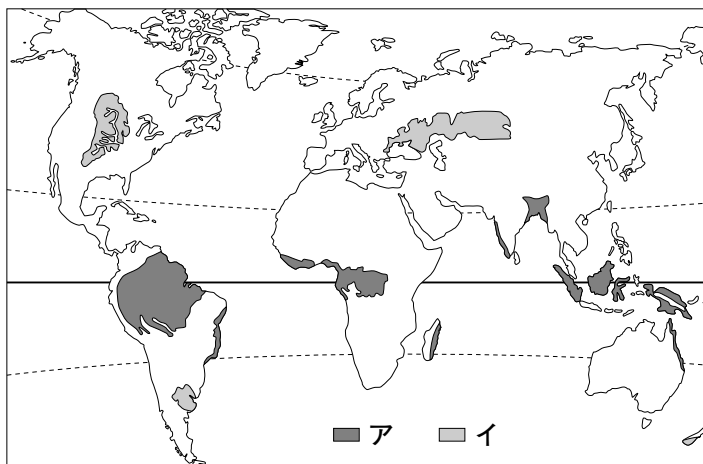
岩石が風化作用を受けると土壌の材料(母材)になる。母材に落ち葉、枯れ草などの有機物が加わり、微生物などに分解された腐植が少しずつ混ざることによって土壌が形成される。気温は微生物の活動に影響し、降水は土壌中の養分を水に溶かす(溶脱する)働きをもつため、気候条件は土壌に対して大きな影響を与える。

資料 4 世界の年間降水量(mm)



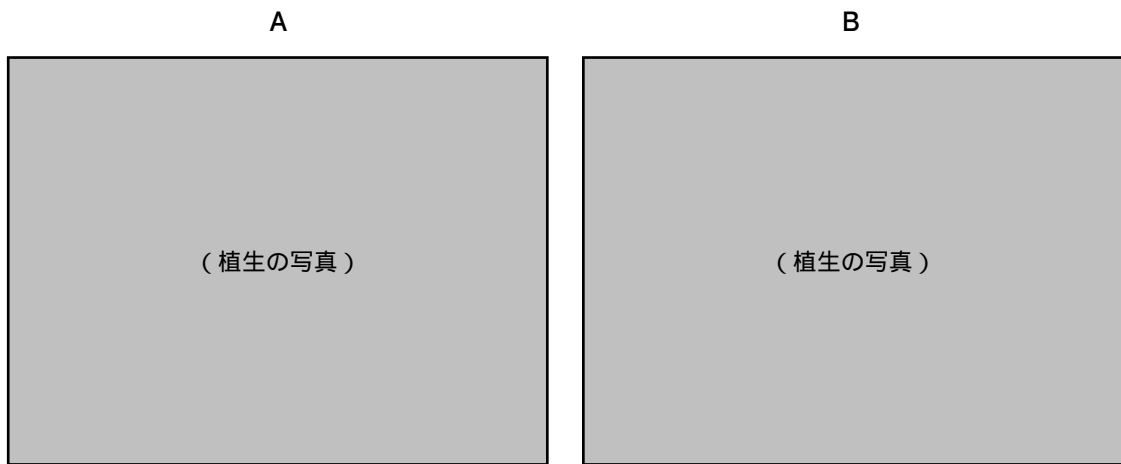
(『やさしい気候学』による)

資料 5 二つの植生の分布



(『地理学講座 3 環境と生態』により作成)

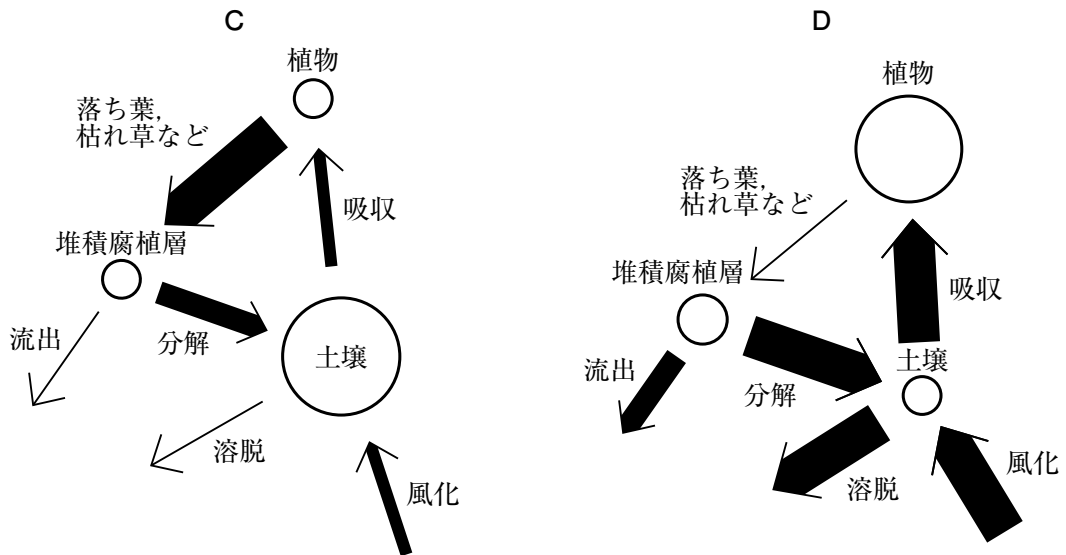
資料6 資料5中のア、イのいずれかの植生の典型的な写真



(<http://yksilkroad.exblog.jp/1606278/> などによる)



資料7 資料5中のア、イのいずれかの植生の生態系と養分の循環のモデル図



注) ・円の大きさはそれぞれの地域内の平衡状態における相対的な養分の貯蔵量を表している。

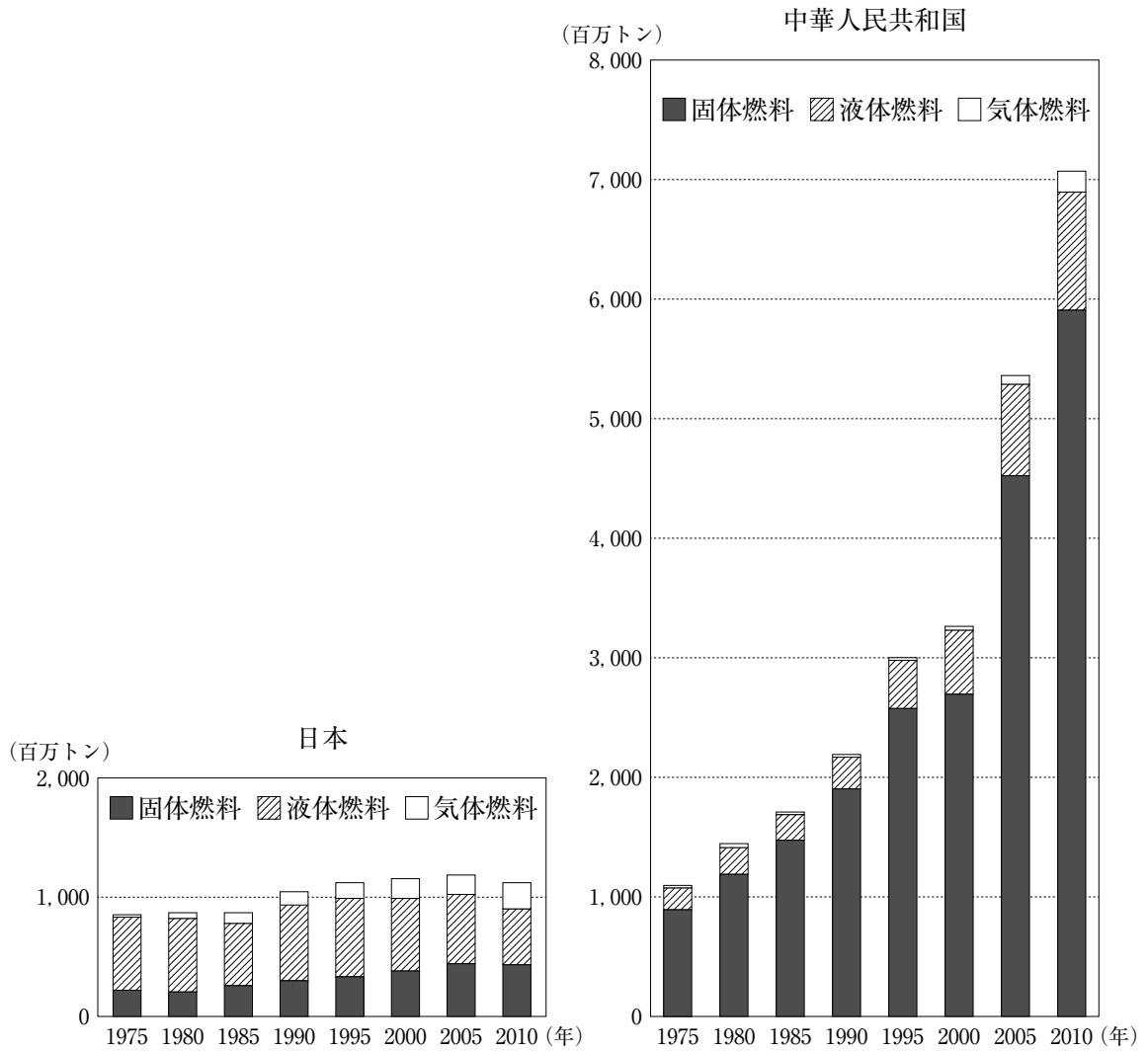
・矢印の太さはそれぞれの地域内における相対的な養分の移動量を表している。

(『地理学講座3 環境と生態』により作成)

	資料6	資料7
①	A	C
②	A	D
③	B	C
④	B	D

問 3 ナミさんは、日本と中華人民共和国の二酸化炭素排出量に興味をもち、資料 8～資料 10 を得た。これらの資料から読み取った内容として最も適切なものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 7。

資料 8 日本と中華人民共和国の排出源別の二酸化炭素排出量の推移

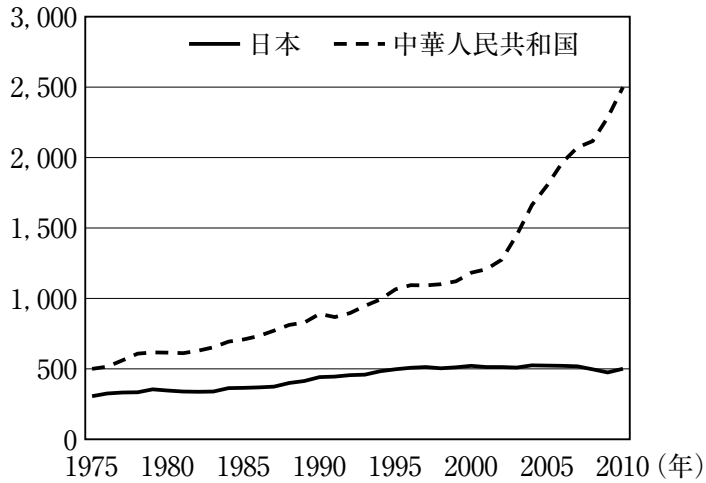


注) 中華人民共和国には香港は含まない。

(CO2 Emissions from Fuel Combustion (2015 Edition) により作成)

**資料9** 日本と中華人民共和国の一次エネルギー供給量の推移(石油換算)

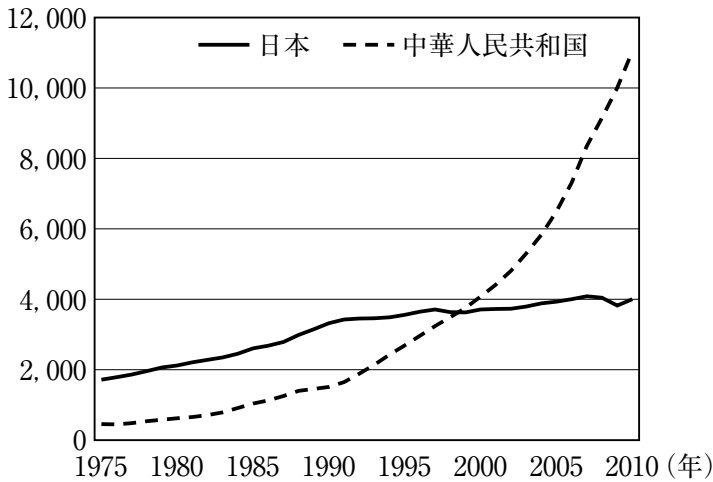
(百万トン)



注) 中華人民共和国には香港は含まない。

**資料10** 日本と中華人民共和国の国内総生産(GDP)の推移

(10億ドル)



注) 中華人民共和国には香港は含まない。

(CO2 Emissions from Fuel Combustion(2015 Edition)により作成)

- ① 資料8から、中華人民共和国の排出源別の二酸化炭素排出量を見ると、1975年以降いづれの年においても、液体燃料の割合が最も高いことが分かる。
- ② 資料9から、2000年から2010年の間に、日本と中華人民共和国の一次エネルギー供給量は、いずれの国も2倍以上に増加していることが分かる。
- ③ 資料8と資料9から、2010年の日本と中華人民共和国の一次エネルギー供給量当たりの二酸化炭素排出量を比較すると、日本の方が少ないことが分かる。
- ④ 資料9と資料10から、日本と中華人民共和国はともに1975年から2010年の間に、GDPが一貫して増加し、いずれの国も一次エネルギー供給量が2倍以上に増加していることが分かる。

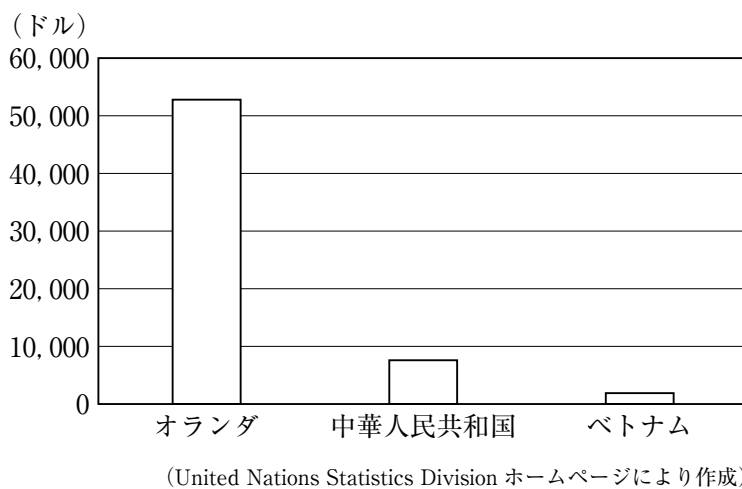


問 4 ナミさんは、漫画に描かれた外国の特徴的な産業に興味をもち、資料11～資料13を得た。これらの資料を参考にして、ナミさんが作成したレポート中の空欄 **X** , **Y** に当てはまる語と記号の組合せとして最も適切なものを、あとの①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **8** 。

資料11 3か国の特徴的な工場の様子



資料12 3か国の一人当たり国民総所得(GNI)(2014年)



資料13 オランダ，中華人民共和国，ベトナムのいずれかの輸出品上位7品目の輸出額と割合(2014年)

オランダ

輸出品	(%)
機械類	22.5
石油製品	11.9
医薬品	4.6
有機化合物	4.0
プラスチック	3.7
自動車	3.5
野菜・果実	3.3

Ⓑ

A

輸出品	(%)
機械類	41.4
衣類	8.0
繊維品	4.8
金属製品	3.7
精密機械	3.2
鉄鋼	3.1
自動車	3.1

B

輸出品	(%)
機械類	30.3
衣類	13.4
はきもの	7.1
魚介類	5.2
原油	4.8
繊維品	3.5
家具	3.1

(『世界国勢図会 2016/2017』により作成)

レポート

資料11のオランダの植物の生産工場働く人々の様子を見ると、奥には機械化が難しい梱包などの単純労働をする人も描かれていますが、それらをコンピューターで管理している様子が分かります。

一方で、オランダ以外の国では、資料12からも分かるように相対的に低い賃金を背景とした **X** 集約的な工業の様子が描かれています。資料13のA、Bのうち **Y** で示されるのがベトナムであり、良質で豊富な労働力を生かした軽工業などの製造業が盛んです。

	X	Y
①	資本	A
②	資本	B
③	労働	A
④	労働	B